

1. 法人本部

(1) 全体統括

2016年度は、第二期「るうてるホーム中期経営計画」の二年目として目標に向かって実践を積み重ねてきました。行動指針においては、マザー・テレサの「あなたの心の中の最良のものを」という言葉を新たに採用し、職員一人ひとりが自らサービスや行動の質について見つめ直すきっかけとなるよう、各事業部において周知いたしました。

最も大きな課題でもある人材確保面では、委員会を中心とした積極的な活動により新規採用職員5名を迎えることができたことは大きな喜びでした。働きやすい職場環境づくりにおいては、それぞれの事業部が工夫をこらし、人材育成とともにすすめることができました。しかしながら、退職者が多数あったことも事実です。これらを機に求められる職場環境の充実に、より一層取り組む課題が明確になりました。

事業においては、一昨年の法改正による報酬改定や市場の変化などにより、安定的な状況とはなりませんでしたが、現状の分析から対策をたてるという実践は積み上げることができました。地域に対しても、新たな発信や積極的な活動に取り組むことができたことは、今後の地域におけるサービス展開を行う上での布石となったことと思います。

(2) 基本方針に基づく運営状況

①法人理念の継承と事業の継続性を目的とした人材確保と育成

- ア. るうてる法人会連合との連携は引き続き積極的に行い、東京老人ホームとの共同研修も新しいメンバーを加えて第二期目に入りました。
- イ. 理念に基づくサービスの実践を目的として、すべての職員に対しての法人内各事業の計画や目標等の説明会の実施も2年目を迎え、価値の共有について考える機会としました。
- ウ. 人材確保・育成委員会の活動は、法人内のみにとどまらず、市内や北河内地区の他法人と協働して人材確保のためのイベントを企画し、実施するなどの成果をあげることができました。また近隣の大学、専門学校への積極的なアプローチを通じ、新たな現場実習生を迎えることにも繋がりました。
- エ. 育成面では、新たに採用された職員への研修プログラムの実施をはじめ、各事業部管理者への研修を強化し、適切な評価がフィードバックできるように努めました。

②あらゆる福祉ニーズに対応するための事業連携体制の強化

- ア. 様々な福祉的ニーズの理解促進を目的とした、障害当事者による研修やスピリチュアルケアをテーマとした研修への取り組みも継続して実施しました。
- イ. 地域との関わりの中から生まれた「はっぴいカフェ」も2年目を迎え、参加者も順調に増えてきました。事業部や業務の枠を超え、職員一人ひとりが地域づくりに携われるいい機会となっています。
- ウ. ターミナルケアに対応する「リーフレット」作成を目標として、事業部を横断してプロジェクトを立ち上げ、秋には完成させることができました。これらをもとに、るうてるホームのサービス方針や考え方など、利用者支援に対しての価値を整理することができました。
- エ. 資格取得を目的とした、職員の自主勉強会への支援を行いました。
- オ. ラトビア共和国の青年合唱団「カメル」によるミニコンサートとルーテル学院（東京）聖歌隊によるミニコンサートを実施しました。

③変化に対応できる法人経営の確立

- ア. 地域社会との積極的連携として、市内中学校等での「認知症サポーター養成講座」の開催や地

- 域交流イベント「るうてるフェスタ」の開催を他法人と協力して実施することができました。
- イ. 熊本での地震災害に対応し、グループ法人への物的支援、人的支援を実施しました。また将来予測される南海トラフ地震をシミュレーションした研修を全職員に実施し、有事に備える意識を持つことができました。
 - ウ. 社会福祉法改正に対応する、新役員等の再構成をはじめとした、様々な準備を滞りなく行いました。これにより、ますます法人の独自性を前面に押し出し、執行体制の強化に向けて取り組むことが明確になりました。
 - エ. 実効性のともなった事業経営への取り組みとして、実績背景の分析や要因に対してのマネジメントを継続して行ってきましたが、十分な評価（結果）は得られませんでした。しかしながら現状に向き合い、将来を予測する実行体制は毎年少しずつ成長しています。
 - オ. 中期経営計画における、事業活動収支比率の目標は達成できませんでしたが、人件費比率は達成しました。

(3) 理事会・評議員会等

① 2016年度に行われました、理事会・評議員会は以下のとおりです。

2016年	5月28日	第1回理事会	第1回評議員会	於：るうてるホーム
2016年	6月1日	第2回理事会		於：るうてるホーム
2016年	11月28日	第3回理事会	第2回評議員会	於：るうてるホーム
2017年	3月28日	第4回理事会	第3回評議員会	於：るうてるホーム

② 監事監査は、2017年1月25日、5月18、19日に行われました。

③ 評議員選任・解任委員会は、2017年1月25日に行いました。

(4) 2016年度事業概要（2017年3月31日現在）

① 実施事業数：17事業（うち四條畷市委託事業3）

（老人福祉法・介護保険法）

軽費老人ホーム（ケアハウス）、広域型特別養護老人ホーム、短期入所生活介護、通所介護事業、訪問介護事業、訪問看護事業、居宅介護支援事業、地域包括支援センター

（障害者総合支援法）

多機能型（生活介護・就労継続支援B型）、居宅介護等支援事業、日中一時支援事業、短期入所事業、計画相談支援事業

（市委託事業）

配食サービス事業、シーツ包布貸与事業、外出支援移送サービス事業、

② 総事業費 628百万円（15年度628百万円）

③ 職員数 128名（うち非正規・嘱託62名）

2. 委員会報告

(1) 人材確保・育成委員会

① 活動方針

法人の実践の積み重ねを継承・発展しサービスの向上と地域福祉の推進に積極的に取り組むため、志を同じくする人材を発掘し、また職員同士が相互に成長し合える環境を構築することを目的として活動しました。

② 活動状況

2016年度は、昨年度重点的に活動した人材確保の取り組みに加え、人材育成として新入職員研修プログラムを企画・実施しました。また、新たな職員による2年間の東京老人ホームとの合同研修も再スタートし、るうてるホーム独自の継続研修も実施しました。

③人材確保についての活動内容

ア. リクナビシステムの運営・管理

イ. 就職フェア等の出展ブースディスプレイ、採用パンフレット作成

ウ. 就職フェア等へのブース出展 計6回

エ. 法人説明会・見学会の開催 計9回

オ. 体験就労、職場体験の受け入れ 計5名

カ. ハローワークの活用

・ハローワーク門真企業合同説明会 1回

・新卒応援ハローワーク マッチングブース出展 1回

キ. 高等学校への求人票持参 計4校

④人材育成についての取り組み

ア. 新入職員研修プログラム企画・実施 計8回

イ. 東京老人ホームとの合同研修 (10/20~10/21)

事前研修2回 事後研修3回

(2) 危機管理委員会報告

①内部監査

ア. 内部監査は2回実施しました。対象事業所は7月ジョイフルるうてる(生活介護)、2月訪問看護ステーションるうてるでした。対象ではない事業所も、介護保険法、障害者総合支援法、老人福祉法等、それぞれの法令に応じた点検を行いました。

イ. 現場職員の課題意識につながるよう、主任、副主任に限らず、リーダー級職員も監査役としました。

ウ. 上記事業所における監査では、研修の計画書や報告書についての改善点を指摘しました。

②避難訓練、非常災害訓練

ア. 5月に夜間想定避難訓練を実施しました。避難誘導時の位置把握(現在地、出火場所、避難場所など)や夜間参集職員との連携が課題となりました。

イ. 9月に減災ワークショップを3回実施しました(84名参加)。地震発生の時季や時間帯を複数設定し、それぞれ被害想定や減災対策をグループワークで検討しました。検討した対策や必要備品については委員会できとまとめ、事業部運営会議に提案しました。

③安全運転に関する取り組み

ア. 7月の安全運転講習会において、安全運転自己診断を実施しました。また、事故多発地帯やリスクの高い地点について意見交換し、運転従事者間で具体的な情報共有を行いました。

イ. 秋や年末年始には、交通安全ポスターを用いて啓発活動を行いました。

④リスクマネジメント情報の共有

計画には挙げましたが、実施には至りませんでした。

(3) 地域交流委員会報告

①活動方針

地域とのつながりを大切にされた地域交流の理解を職員へ働きかけ、ボランティア活動の活発化を推進しました。また職員の福祉厚生と、メンタルヘルスを視野に入れ、職員交流の機会を推進してき

ました。2016年度は「まつり」、「ボランティア」、「職員交流」の3つのプロジェクトに分け、活動を実施しました。

②活動状況

ア. まつりプロジェクト（「るうてるフェスタ」）

福祉施設を知ってもらい、ボランティアが活躍できる場としての「地域参加型イベント」をコンセプト（サブテーマを「Let's ころぼ」）として上げ、2016年10月31日（日）に開催しました。市内5事業所とボランティア2団体に参加してもらい、およそ130名の方々に来ていただきました。また市内在住のプロ歌手河島亜奈睦さんによるミニコンサートを企画し、たくさんの方々に楽しんでいただきました。

イ. ボランティアプロジェクト

ボランティア受け入れの必要性と効果について検証し、ボランティア受け入れを進めました。新規ボランティアとして、近隣教会の女性会や学生が活動を希望され、コーディネートをしました。また、これまで実施できていなかった活動後の振り返りを行ったことは、ボランティアに好評を得ることとなりました。

ウ. 職員交流会プロジェクト

「未知との遭遇 あなたとわたしのかげはし」というコンセプトのもと、職員同士が事業所を越え広く交流し、日頃の労をねぎらい、大切な仲間であることを意識できる取組みとしました。内容としてゲームや職員有志によるバンド等を行い、参加者同士ができるだけ多くの人と会話ができるような仕掛けも用意し、交流を深めることができました。

また、このチームでは、次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画の推進も行いました。男性の育児休暇の取得推進やノー残業デーの設定と推進、若年者に対する職場体験等の受け入れを行いました。

（4）安全衛生委員会報告

①定期健康診断

ア. 入居者健診

実施時期 8月6日 受診者数 ケアハウス・特養 計96名

イ. 職員健診

実施時期 9月6日、9月22日 受診者数 125名

実施機関 医療法人 朋愛会

②職員個別健康相談

健診結果に基づき、産業医により個別面談を実施しました。個別指導が必要と判断した職員を重要度に応じてグループ分けし、緊急性の高い順から面談を実施しました。面談者数は計23名でした。

③ストレスチェック

受診者63名

④インフルエンザ予防接種

入居者92名 職員117名

⑤研修

ア. AED救急救命研修

大東四條曙消防署により、講話と実習を交えた研修を実施。参加者32名

イ. 感染症対策研修

サラヤ（株）により、講話と吐しゃ物処理実習の研修を実施。参加者22名

⑥感染症対策

感染症予防強化週間を設け、特にインフルエンザ感染の予防対策を呼びかけました。

⑦衛生委員会

産業医参加による委員会を毎月開催しました。2016年度は管理栄養士とも協力し、職員の健康改善、維持のため、食事指導も実施しました。

3. チャプレン

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。」(ヨハネ福音書 15:5。リーフレット『愛と希望をもって』より)

前チャプレンの後任として、歴代の先生方が大切にしてきたものを継承しつつ、ステンドグラス『洗足のキリスト』に明示されているような創立時のキリスト教精神を受肉化することに努めてまいりました。

(1) 「礼拝(神の御言)」中心の働き

①主日礼拝

毎週日曜日の午後、多目的ホールにおいて、礼拝式文を用いるかたちで行いました。毎回の出席者は30名前後で、月に一度、チャプレンが聖餐礼拝を担当しました。受洗されていない参加者も毎回10名前後はおられ、それらの方々には祝福をお祈りしています。

②毎朝の礼拝

毎朝、「聖書日課」を用いて行われている入居者による「朝の礼拝」も、るうてるホームをその根底で支えてきた祈りの時であり、祝福の時となりました。ご奉仕くださる方々に感謝いたします。

③葬儀・告別式

2016年度は、9名の方のご葬儀に関わらせていただきました。ホームの多目的ホール(チャペル)で行われるキリスト教の葬儀は、感謝と愛と希望に満ちています。そこでの職員代表による思い出の言葉はどれもとても心がこもっており、故人のご生涯を生き生きと想起させてくれました。「神とともにいまして、ゆく道を守り」という讃美歌が歌われる中、行われる最後の職員による献花と出棺も、参列する者(特にご遺族)の心に深く響き、忘れ得ぬ印象をその魂に刻印しています。それは見事な葬儀式であり、長い人生を生き抜いてこられた方々が人生をまとめてゆくのにまことに相応しいものであったと思います。

④聖書研究

月2回(水曜日)実施しました。

(2) その他の働き

①牧師懇談会

主日礼拝にご奉仕くださる牧師を招き、はじめての懇談会を7月に実施しました。チャプレンを除く10名の牧師先生にご参加いただき、各事業担当者と現状と課題について共有しました。

②看取りのためのリーフレット作成

チャプレンを含めた「看取りのケアのためのリーフレット」作成プロジェクトチーム(8名)が設置され、12回の話し合いを経て、秋にリーフレット『愛と希望をもって～人生の午後を迎えるとき』を完成させることができました。そのプロセスを通して、希望者にはどなたでもスピリチュアルケアや施設内でのキリスト教葬儀の提供が可能であり、最後までお一人おひとりに寄り添って歩む姿勢をるうてるホームは大切にしていることを再確認しました。

③職員への関わり

業務の様々な節目で礼拝を行いながら、創立時のキリスト教精神を確認しています。11月には、

「生死(しょうじ)について」という主題で職員研修会を行い、50名近くの参加者を得ました。また、日常においてもチャプレンとして、これまでの経験と専門性を生かしつつ、自身を見つめながら自他を大切にするという対人援助職の基本姿勢について学びを深めています。

4. 軽費老人ホーム ケアハウスるうてる

(1) 運営状況

2016年度は入居者9名、退居者8名(内訳：逝去2名、特養入居3名、在宅2名、他施設入居1名)でした。

今年度は入居予定者のキャンセルなどにより、空き室が3ヶ月続くこともありましたが、下半期は多くの方の来訪により満室を維持することができました。一年間を通じて見学や入居相談にこられた方が81名、入居申し込みをされた方は23名でした。また、ケアハウスを訪れた方はご家族、教会のお仲間、知人、ボランティアの方々年間のべ1,233名で、入居者お一人おひとりの生活に潤いや活力となって下さいました。

事業計画としては、入居者の健康を支え、充実した日々を送る為の計画的支援を掲げました。新しく入居された方がご自身の可能性を知り、自信を持って生活する事ができるようになるまでには環境になれることが重要です。そして大切なことは「お仲間の支えが大切である」ことです。日々生活を共にしておられるお仲間が受け入れてくださることで、心を開きご自分の可能性に気づくことができます。親しい交わりの中で元気な笑い声や会話を聞くとときに喜びを感じます。入居希望の理由の中には孤独な生活だった方、引きこもりで周囲の方との交流がなかった方、家族との関係が疎遠となった方もおられます。適切な環境と良きお仲間によって人生が再生される事を感じた一年でした。

(2) 事業実績

①利用状況

	2016年度	2015年度	差異
のべ利用者数	17,427名	17,478名	▲51名
入院のべ日数	651日	585日	66日
短期入所利用日数	165日	187日	▲22日
稼働率(対実員)	95%	96%	▲1%

②入居者の現状(2016年3月31日現在)

年齢	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳以上	計
男	3	4	4	2	0	13
女	0	6	16	15	0	37

最高齢：男歳 女97歳 平均年齢：男79歳 女83.8歳 全体82.6歳

介護度別	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
男	3	0	4	0	0	0	0	7
女	5	3	14	7	1	0	0	30

単位：実人数

介護保険利用状況	2016年度	2015年度	差異
訪問介護	23	20	3
訪問リハビリ	8	3	5
通所介護	24	23	1
福祉用具レンタル	12	11	1

訪問看護	4	1	3
短期入所	5	1	4
計	76	59	17

5. 特別養護老人ホーム るうてるホーム

(1) 運営状況

2016年度は、軽費老人ホームやデイサービスなど古くからるうてるホームを利用されていた方々が多く召された一年でした。関わりや思いの深さが影響しているためか、お客様やご家族からの意向だけでなく、職員からも「最期まで可能な限りホームで過ごしてほしい」という言葉が聞かれるようになりました。

ターミナルケアに取り組む中で、看取り期は日々の生活の延長線上にあるとの理解から、改めて看取り期以前（お元気な時）からの関わりを大切に考えるような風土も生まれつつあります。ケアの質ということに照らせば、この一年は本当に大切なステップでした。

一方で、今年度はマンパワー不足という大変厳しい状況が続きました。法人内事業所との連携や短期入所事業の縮小等も含め、職員一丸となって奮起したことにより、何とかお客様の生活支援を継続することができました。

入退居の動きは更に加速し、前年度の1.5倍となりました。昨年同様、次期入居者の確保は困難を極めました。老健や病院の相談室との情報共有の他、入居申込者に適宜連絡し、動向について確認を行いました。

(2) 事業実績（定員50名）

	目標	2016年度	2015年度	目標との差異
のべ利用者数	17,338人	16,988人	17,271人	▲350人
稼働率	95.0%	93.1%	94.4%	▲1.3%
平均介護度	—	4.0	3.9	—

※入院者の実人数は前年より2.5割減少しましたが、のべ入院日数は2割増となりました。合計入院日数が3ヶ月を超えた方が2名おられました。

※年間の新規入居者は17名でした。

※社会福祉法人減免の適用は4名でした。

利用者の現況（2017年3月31日現在）

年齢	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳以上	計
男	0	1	4	1	0	6
女	1	2	12	23	4	42

最高齢：男91歳 女103歳 平均年齢：男83.8歳 女90.9歳

利用年数	～1年	1～4年	5～9年	10～14年	15～19年	20年～	計
男	3	2	1	0	0	0	6
女	12	16	11	2	1	0	42

平均在所期間：4年8ヶ月

6. るうてるホーム短期入所生活介護事業所

(1) 運営状況

2016年度は、年間を通じて職員配置が整わず、大変厳しい運営となりました。業務見直しを行

い、清掃や入浴介助、夜勤について専従のパートや派遣職員に割り振りましたが、年末には特養本体の介護職員減を受け、短期入所の介護職員を特養へ配置換えせざるを得ませんでした。これにより、短期入所の稼働は4～5割程度が限度となりました。

新規利用の内訳は、介護保険関係ではるうてる居宅介護支援事業所14件、他事業所12件、障害福祉関係8件であり、昨年度比でそれぞれ4～5割減となりました。要因については、競合事業所の影響や地域ニーズの変化などが考えられますが、今後も動向を注視していく必要があります。

緊急利用については可能な限り対応し、障害福祉関係も含め17名の受入れを行うことができました。ケアハウスで生活が難しくなられた方についても、引き続き受入れを行い、ホームでの生活を継続していただけるよう努めました。

(2) 事業実績 (定員20名)

	目標	2016年度	2015年度	目標との差異
のべ利用者数	高齢 4,745人	3,496人	3,755人	▲1,249人
	障害 1,095人	1,222人	1,151人	127人
稼働率	高齢 65.0%	47.9%	51.3%	▲17.1%
	障害 15.0%	16.7%	15.7%	1.7%

※平均利用は、高齢9.5名/日、障害3.3名/日でした。

※上記の内、高齢1,799日、障害441日が1ヶ月以上滞在の短期入所でした。前年度比で、高齢3割増、障害2割減となりました。

利用登録者の現況 (2017年3月31日現在)

年齢	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～99	100～	計
男	(3)	(0)	(3)	1 (0)	1 (0)	5	4	1	0	12 (6)
女	(2)	(2)	(3)	1 (2)	1 (1)	6	11	5	1	25 (10)

※2016年1～3月の利用動向より集計、()内は障害利用者

7. 通所介護事業 デイサービスセンターるうてる

(1) 運営状況

2016年は、利用者ニーズに応えることを大切にされた結果、6月には稼働率100%の実績となりました。しかしながら、定員超過減算への対策として体験利用をお断りする対応を取った結果、新規利用が伸び悩んだ上に利用休止者が上半期19名、下半期32名となり、3月にはピーク時に比べ稼働率が17%下落しました。最終的にかろうじて年間目標稼働率の90%は越えたものの、この経験は、わたしたちにとって厳しいものとなりました。

生活リハビリでは、食事、入浴、排せつの場面で、ご自分でできることを確認しながら、リスト化し、事業所内で内容の共有をはかりました。できることをご自分で行っていただくことは、職員にも気持ちの余裕ができました。この取り組みと通じて、体験利用からの新規契約率が2015年では6割だったのに対し、今年度は8割となり2割増加させることができました。

また、日常生活支援総合事業への準備では、利用者それぞれが「やりたいこと」について、チェックシートを活用し聞き取りを行いました。私たちが考えるサービスではなく、利用者の思いを中心に進めることができました。

(2) 事業実績

	目標	2016年	2015年	目標との差異
のべ利用者数	9,858人	9,931人	10,191人	73人
一日平均利用者数	31.5人	32人	32.7人	0.5人
稼働率(対定員)	90.0%	90.7%	93.3%	0.7%
体験利用者数	36人	36人	54人	0人

① 介護保険サービスは、新規利用 35名、利用再開 14名に対し利用休止者は 51名でした。

8. 障害者多機能事業 ジョイフルるうてる

(1) 運営状況

生活介護は、2016年3月に定員変更10名から12名へ増員をしました。これまでご自宅から出られなかった方が定期的な利用につながるケースが2件あり、事業所の持つ雰囲気がいよ結果につながられたのだと感じています。結果、目標稼働率90%に対し、稼働率90.8%の実績をあげることができました。

就労継続支援B型では、チームでする作業だけでなく、個別の作業を始めることができました。他事業所では継続利用が難しかった方が3年経過しており、少人数ならではの細やかな支援がマッチングしたようです。新規も2名の利用がありましたが、目標稼働率50%に対し43.9%でした。

全体では、職員全員参加の会議を月一回行い、業務の効率化をはかり改善の機会としました。また、職員全員で個別支援計画を作成することに伴って、勉強会をおこないました。個別支援計画の意味、必要性を再度確認し、支援の方向性を一致させ、個別対応の充実を図る目的が確認できました。

(2) 事業実績

生活介護	目標	2016年度	2015年度	目標との差異
のべ利用者数	2,786人	2,811人	2,505人	25人
一日平均利用者数	10.8人	10.9人	9.7人	0.1人
稼働率(対定員)	90%	90.8%	95.0%	0.8%

①新規利用5名に対し、利用休止者は4名でした。

就労継続支援B型	目標	2016年度	2015年度	目標との差異
のべ利用者数	1,295人	1,149人	1,052人	▲146人
一日平均利用者数	5.0人	4.6人	4.1人	▲0.4人
稼働率(対定員)	50%	43.9%	40.6%	▲6.1%

①新規利用2名に対し、利用休止者は2名でした。

9. 四條畷第1地域包括支援センター

(1) 運営状況

2016年度は、「住民力(住民の持つ力)との協働」をキーワードに地域支援の充実を図ってきました。後述しますが、地域住民から住民主体の活動支援の相談が増えたことで、今まで関わりのなかった住民組織の想いを知ることができ、これまで関わったことがあった機関とも「地域活動は地域住民主体の活動である」という意識の共有ができました。地域住民が自分のもつ力で自分の住む地域に対し貢献する取り組みに携わることができたことで、「住民力との協働」の実践が地域包括ケアに結びついている実感があります。

一方で、当センター主催の介護者・家族交流会は、当センターと市内の住民組織との関わりが広が

っていく中、参加者主体の運営に向けて専門職としての関わり方をまとめる一年として設定していましたが、地域支援をテーマにした会議の有効活用や地域に向けた全体的な視点をもつことなど、次年度へ課題のもち越しとなりました。

人材育成のための環境整備については、今年度は職員の増員と異動があり、職員の質的向上に向けて個別支援の積み上げや会議や日々の話し合い、実習生との関わりから、地域支援のための自身の課題に向き合う環境作りを継続して行いました。職員自身が課題に感じるテーマに対し、職員一人ひとりが主体的・積極的に事務所内で自主的な勉強会を開催するなど、育ちあう環境作りを実践しました。

(2) 事業実績

①包括的支援事業

ア. 総合相談支援事業

相談実績	2016年度	電話	F A X	来所	訪問	その他	計
	実人数	253	0	60	22	4	339
	延件数	321	0	69	23	5	418
	夜間緊急	19	0	6	2	0	27
相談実績	2015年度	電話	F A X	来所	訪問	その他	計
	実人数	228	0	73	58	17	376
	延件数	333	0	81	63	19	496
	夜間緊急	23	0	3	1	1	28

イ. 介護予防ケアマネジメント業務

	2016年度	2015年度
二次予防高齢者ケアプラン作成数	0件	0件

ウ. 権利擁護事業 ()は実人数

	2016年度	2015年度
権利擁護に関する相談	10件(10人)	11件(12人)
高齢者虐待に関する相談	6件(9人)	14件(26人)

エ. 包括的継続的マネジメント業務 ()は延べ人数

	2016年度	2015年度
介護支援専門員支援に関する相談	17件(18人)	28件(33人)

②指定介護予防支援に係る事業

	目標	2016年度	2015年度	目標との差異
要支援者ケアプラン作成数	1,900件	1,990件	2,147件	247件
うち委託件数	1,600件	1,754件	1,901件	301件
うち自事業所作成件数	300件	236件	241件	▲59件

③介護予防事業

ア. 介護予防普及啓発事業 介護予防教室・介護予防に関する講演会 ()は参加人数

※認知症予防カフェ「ぶどうの木」運営会議 2回

	2016年度	2015年度
開催回数	1回(29人)	2回(58人)

イ. 地域介護予防活動支援事業 ()は参加人数

	2016 年度	2015 年度
運動サポーター養成講座	0 回 (0 人)	0 回 (0 人)
運動サポーターフォロー講座	0 回 (0 人)	0 回 (0 人)
運動サポーター連絡会議	4 回 (31 人)	4 回 (32 人)
カラコロ体操	84 回 (2196 人)	71 回 (1623 人)
その他の事業 (ボランティア活動支援等)	13 回 (66 人)	16 回 (78 人)

④その他の事業

ア. 家族介護支援事業 ()はのべ参加者数

	2016 年度	2015 年度
家族介護教室	12 回 (73 人)	12 回 (64 人)

イ. 認知症高齢者見守り事業 ()はのべ参加者数

	2016 年度	2015 年度
認知症に関する教室・講演会	1 回 (120 人)	7 回 (393 人)

10. ケアプランセンターるうてる

(1) 運営状況

2016年度よりケアマネジメントの質的向上を事業方針として定め、毎週事業所内で定例会の開催を継続して行い、介護支援専門員相互で課題や支援方法を共有してきました。また、法人内監査の指摘なども活用しながら、職員間のケアマネジメントの理解を深めてきました。一方で、書類整備上の課題が明らかになることもあり、数年来続けてきた法令順守の确实性を改めて問われる結果となりました。

また、既存の制度・サービスの提供では支援できない方々への支援を目指した有償サービスの実験的運用は、十分な議論を積み重ねることができず、来年度の課題として継続することとなりました。

総合相談支援の拡充については、今年度は本格的に計画相談支援事業を実施し、多くの相談が寄せられました(2016年4月の計画相談支援プラン数6件→2017年3月17件)。また、四條畷市内に障害児・者のケアマネジメントを担う事業所が整っていないことから、行政や関係機関から多くの相談があり、2016年10月からは計画相談支援に加え、障害児相談支援に係る事業所としての指定を受けました(上記17件中2件が支援開始時に障害児)。

一人ひとりの利用者への支援を通じて法人内の障害者福祉サービス事業所との連携も深まっています。また、社会貢献事業もケアプランセンターで対応しており、今年度も1件の相談がありました。四條畷市内各社会福祉法人や市役所生活福祉課との連携については次年度に持ち越す課題となっています。

四條畷市介護支援専門員連絡会には当センター主任介護支援専門員が世話役として継続して参画して3年目となり、市内の主任介護支援専門員世話人会へ参画し、居宅介護支援専門員との連携を強めてきました。

人材育成のための環境整備については、年度当初に各自が自己評価表と連動する形で年間個別研修計画を作成し、自らの資質向上に向けて計画的に内外の研修を受講する意識を高めており、特に看取りへの支援を深める取組みについては、ケアプランセンターからの発信で法人内で看取りに関するプロジェクトを立ち上げることができました。

(2) 事業実績

①介護保険 居宅介護支援・介護予防支援

	目標	2016年度	2015年度	目標との差異
介護ケアプラン数	1,800件	1,683件	1,626件	▲117件
介護予防ケアプラン受託数	360件	554件	470件	194件
一人あたり請求件数/月	31.1件	29.9件	26.7件	▲1.2件
一人あたり支援件数/月	34.0件	35.1件	30.1件	1.1件

②障害者総合支援 計画相談支援

	目標	2016年度	2015年度	目標との差異
ケアプラン数	216件	164件	0件	▲52件
請求件数	60件	40件	0件	▲20件

1.1. ヘルパーステーションるうてる

(1) 運営状況

2016年度のサービスの質の向上については、各職員の個別研修計画を作成して計画的な自己研鑽ができるよう取り組みを始め、職員の課題に沿った獲得すべき技能の向上、新・総合事業の理解などを旨として法人内外の研修の受講を進めました。また、昨年度の危機管理委員会による法人内監査で指摘を受けた苦情や事故の記録についても、小さな事象でも苦情や事故を記録するよう改善したことは継続して実施しています。

4月以降人員体制の課題もありましたが、職員それぞれ不安を乗り越え、主体的に利用者やご家族、関係機関との調整を行い、職員間の協力でサービス提供を継続するなど、大きな自信を得ることとなりました。また、サービス提供時間の減少を職員の質向上の機会と捉え、今年度は昨年度と比較して多くの外部研修を受講しました。

(2) 事業実績

	目標	2016年度	2015年度	目標との差異
利用者数（月ごと延べ人数） （障害サービス利用者）	780人 (120人)	667人 (73人)	734人 (82人)	▲113人 (▲47人)
のべ訪問回数(介護保険)	8,400回	6,448回	7,960回	▲1,952回
〃（障害者）	1,200回	1,211回	1,415回	11回

1.2. 訪問看護ステーションるうてる

(1) 運営状況

人材確保の取り組みとして、6月に近隣大学に新設された看護学部で訪問看護師はじめ法人専門職が出講し、8～9月には計10日間で13名の看護学生を当法人各事業所での実習で受入れるなど看護師養成機関・教員との連携の取り組みも深まってきました。

人材育成のための環境整備については、各職員が個別研修計画を作成して計画的な自己研鑽ができるよう取り組みを始めました。また、通所事業部との連携による訪問看護師の研修は継続して実施し、本人自身も課題を明確にして取り組むことができています。

サービスの質的向上については、毎月事業所内ケースカンファレンスを開き、情報共有と支援の検討を行ってきました。リスクマネジメントを通してのサービスの質の向上や、チームアプローチによる取り組みをさらに進めることは継続した課題です。

るうてるホームの訪問看護ステーションは、介護保険サービスや、障害児・者サービス、ケアハウスなど、福祉・介護領域と看護の連携が容易な総合型の社会福祉法人運営であるという強みがあります。事業を安定的に継続するには、このような強みを活かすことが必要であると考えます。法人全体の看護ニーズへの事業所の枠組みを超えた対応や現行の制度やサービスの枠組みにとらわれない在宅看護のあり方についても検討していきます。

(2) 事業実績

	目標	2016年度	2015年度	目標との差異
延べ利用者数	276人	212人	223人	▲65人
介護保険延べ回数	780回	947件	951件	171件
医療保険延べ件数	1,056件	896件	936件	▲120件

13. 栄養

(1) 運営状況

2016年度も「食事を通してその人らしい生活が継続できるよう支える」をサービス方針に掲げて業務を行いました。昨年から導入を始めたソフト食は継続していますが、現在もまだ食事全部には至っていません。嚥下状態が低下された方の誤嚥を避けるためにも、引き続き勉強や理解を深めていき、食べることによる健康維持を支えていきます。また、食事提供スタイルの工夫の面では、嗜好調査の意見を取り入れて、各ユニット毎もしくは2ユニット合同での鍋物やイベント食が好評でした。

栄養ケアマネジメントは、ユニット会議への参加や食事時間に状況を見ることにより、各入居者の状態に合わせたきめ細かい書類作成ができました。日常業務に組み込み、着実に進めています。

入居者の食事イベントへの参加ツールの一環で、行事食につけるお品書きを、お客様に作って頂くことも継続しました。材料を準備して希望される方に参加してもらいましたが、作る楽しさとコミュニケーションの場になりました。

厨房では、苦情や温度管理等リスクマネジメントが昨年度に比べ減少しました。ソフト食の更なる推進のためにも、今一度業務の流れや作業の見直しを検討し、より安全で細やかなサービスを心がけていきます。

(2) 事業実績

		2016年度	2015年度
ケア	実食数	45,262	46,409
特養	実食数	58,382	60,142
	経管	4,811	4,471
デイ	食数	9,804	10,001
障害	食数	2,903	1,790
配食	食数	1,573	1,004

14. 総務部

(1) 運営状況

2016年度は総務の業務を見直し、改善していくための一年でした。年間を通して、法人全体での大きな行事等はなかったため、日々の業務を着実に進める中で、担当者が自分の職域の効率化やレベ

ルアップを考え、事業部全員で検討し、よりよい内容を作り上げていく作業を実施しました。

上半期は、6月の理事長交代に伴い、関係各機関への届け出や変更手続きがあり、案内状の作成、送付や名義変更など大量の事務がありました。マイナンバー制度の手続きも継続して入力作業を実施しました。

下半期は業務を見直し、効率化を進め、レベルアップを目指して検討し着手しました。介護保険や自立支援給付金の国保連への請求を従来のISDNからインターネット経由へ変更しました。変更後も作業内容や作業にかかる時間的には変わりませんが、経費削減になりました。水光熱費の削減を目指し2015年度に節水器具の設置を実施しましたが、なかなか導入時の目標とした削減が果たせないため、毎日水道使用量を測定し、対策につき検討しました。

情報の共有については、できるだけ情報を収集し、必要な情報を必要な部署へ適切に伝達することを目指しています。自部署だけの努力では限界がありますので、各担当が所属する会議などでも周知するなど、情報共有の重要性の認識を促すようにしています。

新会計基準と同時に会計ソフトも入れ替えて2年間業務を行ってきましたが、課題も出てきました。事務の効率化と業務のレベルアップを目指し、2016年度途中から新しい会計事務所と契約を行い、業務指導を受けていくこととしました。

15. 四條畷市委託事業

(1) 運営状況

配食サービスについては、高齢者の新規利用が2名ありましたが、その後終了となっています。昨年度に比べ微増という結果になりました。他の配食サービス事業者も展開される中、市域のニーズを確認し、事業の見直しを行っていく必要があると考えます。また、リネンサービスは、新規利用者がなく、年間通じて月2名利用に留まっています。外出支援移送サービスは、今年も実施することなく終わっています。

(2) 事業実績

①配食サービス

	2016年度	2015年度	差異
のべ利用者数	80人	63人	17人
配食数	1138食	823食	315食

②リネンサービス

	2016年度	2015年度	差異
のべ対象者数	24人	24人	0人
のべ枚数	220枚	231枚	▲11枚

③外出支援移送サービス

	2016年度	2015年度	差異
利用実人員	0人	0人	—
延べ利用者数	0人	0人	—